

法 規 (1)

〔1〕 固定局を開設しようとする者は、総合通信局長（沖縄総合通信事務所長を含む。）にどのようなことをしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. その旨の免許申請をする。
2. その旨を登録する。
3. その旨を届け出る。
4. その旨を報告する。

〔2〕 無線従事者がその免許証の訂正を受けなければならないのは、どのような場合か、次のうちから選べ。

1. 他の無線従事者の資格の免許を受けたとき。
2. 本籍の都道府県を変更したとき。
3. 氏名に変更を生じたとき。
4. 住所を変更したとき。

〔3〕 免許人（包括免許人を除く。）が不正な手段により無線設備の変更の工事の許可を受けたとき、その無線局についてどのような処分を受けることがあるか、次のうちから選べ。

1. 運用の停止
2. 免許の取消し
3. 周波数の制限
4. 運用許容時間の制限

〔4〕 臨時検査（電波法第73条第4項の検査）において検査されることがあるのは、次のどれか。

1. 無線従事者の勤務状況
2. 無線従事者の業務経歴
3. 無線従事者の知識及び技能
4. 無線従事者の資格及び員数

〔5〕 無線局の免許がその効力を失ったとき、免許人であった者がその免許状についてとらなければならない措置は、次のどれか。

1. 1か月以内に返納する。
2. 適当な時期に返送する。
3. 直ちに廃棄する。
4. 2年間保管する。

〔6〕 無線局において、空電、混信、受信感度の減退等の通信状態については、電波法施行規則では、次のどれに記載しなければならないことになっているか。

1. 無線設備の保守管理簿
2. 無線局事項書の写し
3. 無線業務日誌
4. 無線検査簿

法 規 (2)

〔7〕 空中線電力 50 ワットの固定局の無線設備を使用して呼出しを行う場合において、確実に連絡の設定ができると認められるときの呼出しは、次のどれによることができるか。

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 相手局の呼出符号 | 3 回以下 |
| 2. 自局の呼出符号 | 3 回以下 |
| 3. (1) 相手局の呼出符号 | 3 回以下 |
| (2) DE | 1 回 |
| 4. (1) DE | 1 回 |
| (2) 自局の呼出符号 | 3 回以下 |

〔8〕 無線電信通信において、相手局に対し通報の反復を求めようとするときは、次のどれによることになっているか。

1. 反復する箇所を繰り返し送信する。
2. 反復する箇所の次に「RPT」を送信する。
3. 「RPT」を送信する。
4. 「RPT」の次に反復する箇所を示す。

〔9〕 非常の場合の無線通信において、無線電信により連絡を設定するための呼出しは、次のどれによって行うことになっているか。

1. 呼出事項の次に「OSO」3回を送信する。
2. 呼出事項の次に「OSO」2回を送信する。
3. 呼出事項に「OSO」3回を前置する。
4. 呼出事項に「OSO」1回を前置する。

〔10〕 無線電信通信において、「ラタ」を使用する場合は、次のどれか。

1. 通報がないことを通知しようとするとき。
2. 周波数の変更を完了したとき。
3. 通報の送信が終わるとき。
4. 通信が終了したとき。

〔11〕 無線通信の原則として無線局運用規則に規定されているのは、次のどれか。

1. 無線通信は有線通信を利用することができないときに限り行うものとする。
2. 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、直ちに訂正しなければならない。
3. 無線通信を行う場合においては、略符号以外の用語を使用してはならない。
4. 無線通信は長時間継続して行ってはならない。

〔12〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与える旨の通知を受けたときは、次のどれによらなければならないか。

1. 中止の要求があるまで呼出しを反復する。
2. 直ちにその呼出しを中止する。
3. 空中線電力をなるべく小さくして注意しながら呼出しを行う。
4. 混信の度合いが強いつきに限り、直ちにその呼出しを中止する。